

【同時発表先】

合同庁舎記者クラブ、鳥取県政記者会、島根県政記者会、岡山県政記者クラブ、  
広島県政記者クラブ、山口県政記者会、山口県政記者クラブ、  
山口県政滝町記者クラブ、中国地方建設記者クラブ、港湾新聞、港湾空港タイムス、  
日本海事新聞

平成27年速報

中国地方の平成27年国際コンテナ取扱貨物量の速報値について  
～国際フィーダーコンテナは近年最高の取扱を記録～

- 主に阪神港を利用した国際フィーダーコンテナ取扱貨物量は15.5万 TEU で、  
対前年比9.4%増加 (P3, 4参照)
- 国際コンテナ取扱貨物量は65.3万 TEU で、対前年比1.6%増加 (P1参照)
- 外貿コンテナ取扱貨物量は日本の五大港湾(東京、横浜、名古屋、大阪、神戸)  
で対前年比4.2%減少したのに対し、49.8万 TEU で、対前年と同等で推移  
(P2参照)

注1: 全国の港湾管理者の調査結果をもとに集計

注2: 国際フィーダーコンテナとは、国際コンテナの内、神戸港や大阪港等を経由  
するコンテナをいう

注3: 外貿コンテナとは、中国地方の港湾を起終点とし、直接外国へ輸出入する  
コンテナをいう

注4: 国際コンテナ=外貿コンテナ+国際フィーダーコンテナ

注5: TEU=Twenty-foot Equivalent Units

20フィートコンテナに換算したコンテナの個数を表す

<問い合わせ先>

中国地方整備局 港湾空港部 港湾物流企画室 (国際コンテナ戦略港湾政策推進室)

TEL: 082-511-3928 (直通) : (平日・昼間)

室長 <sup>すが</sup>菅 <sup>たかのり</sup>高徳 課長補佐 <sup>よしだ</sup>吉田 <sup>ほうせい</sup>豊成

<広報担当窓口>

中国地方整備局 TEL: 082-221-9231 (代表) : (平日・昼間)

広報広聴対策官 <sup>さかや</sup>坂屋 <sup>まさゆき</sup>政之(内線2117)

企画部 環境調整官 <sup>まつもと</sup>松本 <sup>はるお</sup>治男(内線3114)

# 中国地方の港湾における国際コンテナ取扱貨物量

～ 平成27年速報 ～

## ■ 国際コンテナ取扱貨物量

・中国地方の港湾（下関港を除く、以下同じ。）における平成27年の国際コンテナ取扱貨物量の速報値は65.3万TEU<sup>\*1</sup>であり、前年比で1.6%増加しています。

（図-1、表-1参照）

※『国際コンテナ取扱貨物量』とは「外貿コンテナ取扱貨物量<sup>\*2</sup>」と「国際フィーダーコンテナ取扱貨物量<sup>\*3</sup>」を足し合わせた取扱貨物量であり、中国地方の港湾を介して輸出入された正味のコンテナ取扱貨物量です。

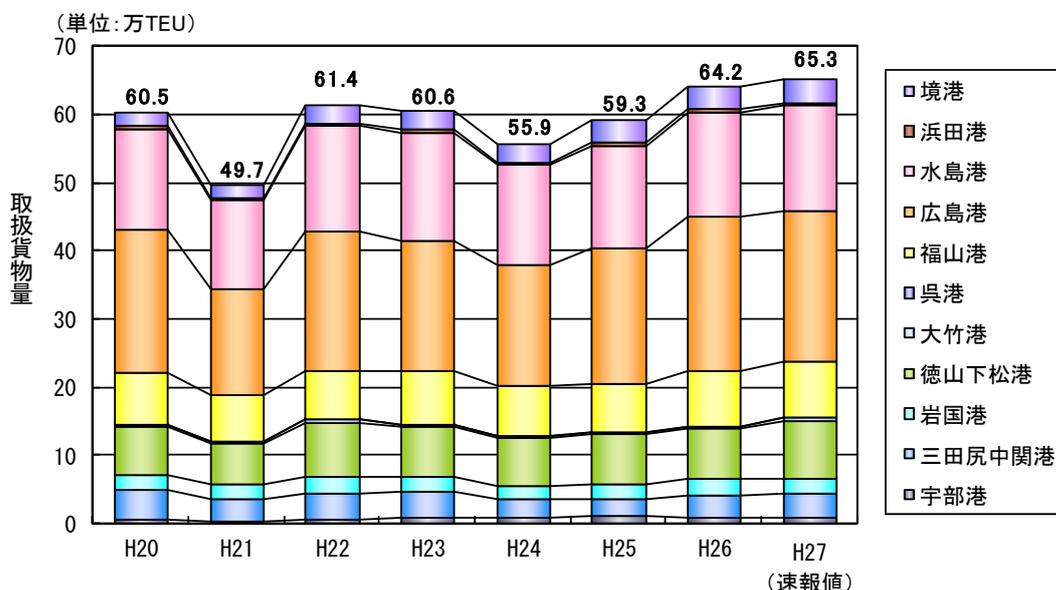


図-1 【国際コンテナ取扱貨物量の推移】

表-1 【港別の国際コンテナ取扱貨物量（空コンテナを含む）】

（単位: TEU）

港湾名	平成26年			平成27年 (速報値)			平成26年 からの増減 (TEU)	平成26年からの伸び率		
	合計	出	入	合計	出	入		合計	出	入
境港	33,144	17,347	15,797	34,006	18,118	15,888	862	2.6%	4.4%	0.6%
浜田港	5,002	2,461	2,541	3,877	1,834	2,043	▼1,125	▼22.5%	▼25.5%	▼19.6%
水島港	153,199	77,611	75,588	155,785	78,617	77,168	2,586	1.7%	1.3%	2.1%
広島港	225,112	113,021	112,091	221,509	111,574	109,935	▼3,603	▼1.6%	▼1.3%	▼1.9%
福山港	82,740	41,394	41,346	80,081	39,914	40,167	▼2,659	▼3.2%	▼3.6%	▼2.9%
呉港	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
大竹港	2,600	1,611	989	6,499	4,439	2,060	3,899	150.0%	175.5%	108.3%
徳山下松港	74,719	48,961	25,758	83,137	55,596	27,541	8,418	11.3%	13.6%	6.9%
岩国港	25,191	18,239	6,952	23,948	17,236	6,712	▼1,243	▼4.9%	▼5.5%	▼3.5%
三田尻中関港	31,129	21,514	9,615	35,298	23,361	11,937	4,169	13.4%	8.6%	24.1%
宇部港	9,486	5,621	3,865	8,564	5,462	3,102	▼922	▼9.7%	▼2.8%	▼19.7%
合計	642,322	347,780	294,542	652,704	356,151	296,553	10,382	1.6%	2.4%	0.7%

注1) 呉港については、平成24年11月より外貿コンテナ航路が一時休止。

## ■ 外貿コンテナ取扱貨物量<sup>※2</sup>

- 中国地方の港湾における平成27年の外貿コンテナ取扱貨物量の速報値は49.8万TEUであり、前年と同等で推移しています。〔輸出：0.8%減少、輸入：0.0%増加〕

(図-2、表-2参照)

- 外貿定期コンテナ就航航路数は、平成27年12月末時点で韓国、中国、台湾、香港、東南アジア、ロシア、北米方面へ週79.75便が就航しています。これは、平成26年12月末(週78.75便)と比較すると週1便増加しています。

- 平成27年の中国地方の港湾における合計貨物量が前年同等に比べ、平成27年の日本の五大港の合計貨物量は、対前年比4.2%減少しています。

(表-2参照)

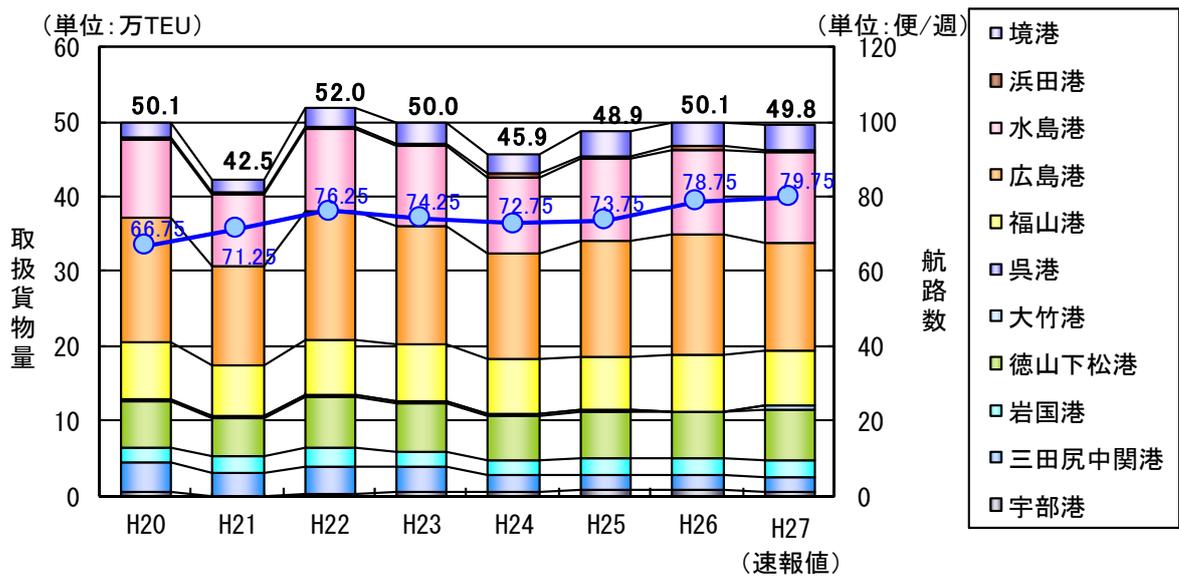


図-2 【外貿コンテナ取扱貨物量と週あたり就航航路数の推移】

表-2 【港別の外貿コンテナ取扱貨物量 (空コンテナを含む)】

(単位:TEU)

港湾名	平成26年			平成27年 (速報値)			平成26年 からの増減 (TEU)	平成26年からの伸び率		
	合計	輸出	輸入	合計	輸出	輸入		合計	輸出	輸入
境港	33,144	17,347	15,797	34,006	18,118	15,888	862	2.6%	4.4%	0.6%
浜田港	5,002	2,461	2,541	3,877	1,834	2,043	▼1,125	▼22.5%	▼25.5%	▼19.6%
水島港	112,373	57,291	55,082	119,710	61,007	58,703	7,337	6.5%	6.5%	6.6%
広島港	160,344	84,421	75,923	145,329	73,822	71,507	▼15,015	▼9.4%	▼12.6%	▼5.8%
福山港	75,624	34,928	40,696	74,399	34,875	39,524	▼1,225	▼1.6%	▼0.2%	▼2.9%
呉港	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
大竹港	2,414	1,433	981	3,655	1,781	1,874	1,241	51.4%	24.3%	91.0%
徳山下松港	61,631	39,302	22,329	68,211	45,609	22,602	6,580	10.7%	16.0%	1.2%
岩国港	22,504	15,938	6,566	22,099	15,568	6,531	▼405	▼1.8%	▼2.3%	▼0.5%
三田尻中関港	20,061	12,293	7,768	20,382	11,243	9,139	321	1.6%	▼8.5%	17.6%
宇部港	7,836	4,009	3,827	6,320	3,232	3,088	▼1,516	▼19.3%	▼19.4%	▼19.3%
合計	500,933	269,423	231,510	497,988	267,089	230,899	▼2,945	▼0.6%	▼0.9%	▼0.3%
※【参考】五大港合計 (単位:万TEU)	1,379.6	685.9	693.7	1,321.5	656.4	665.1	▼58	▼4.2%	▼4.3%	▼4.1%

※五大港:東京港、横浜港、名古屋港、大阪港、神戸港

## ■ 国際フィーダーコンテナ取扱貨物量<sup>※3</sup>

- 中国地方の港湾における平成27年の、主に阪神港を利用した国際フィーダーコンテナ取扱貨物量は15.5万TEUであり、前年比で9.4%増加しています。(図-3、表-3参照)

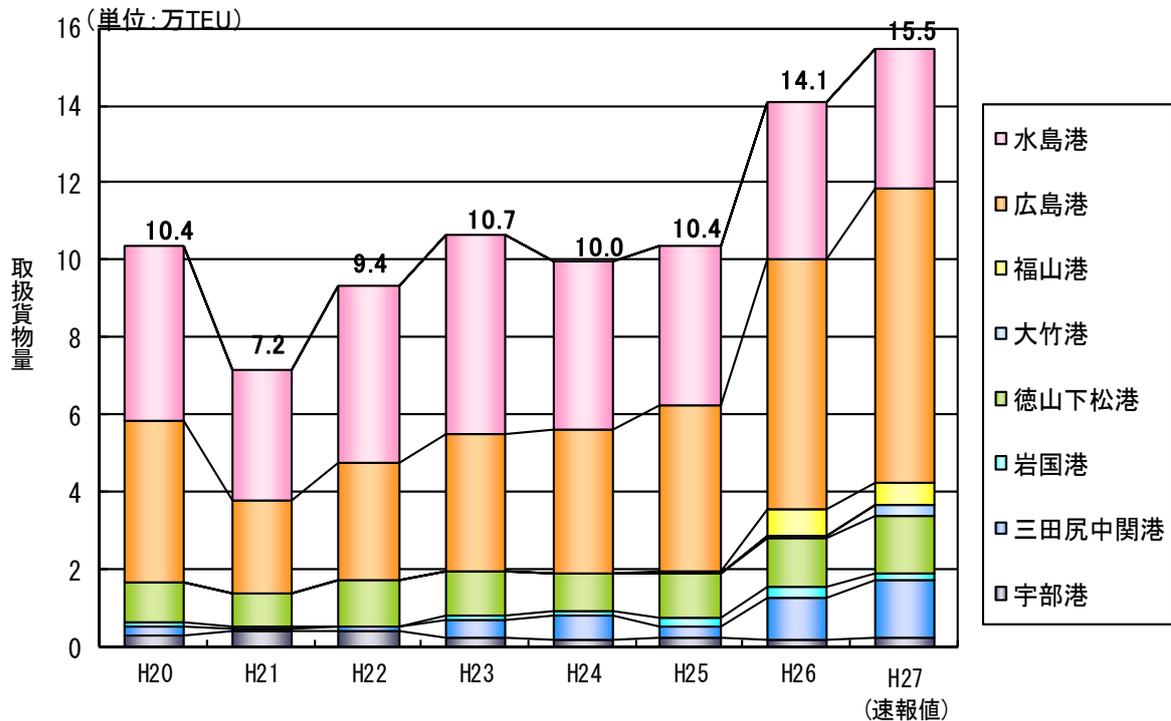


図-3 【国際フィーダーコンテナ取扱貨物量の推移】

表-3 【港別の国際フィーダーコンテナ取扱貨物量 (空コンテナを含む)】

港湾名	平成26年			平成27年 (速報値)			平成26年 からの増減 (TEU)	平成26年からの伸び率		
	合計	出	入	合計	出	入		合計	出	入
	水島港	40,826	20,320	20,506	36,075	17,610		18,465	▼4,751	▼11.6%
広島港	64,768	28,600	36,168	76,180	37,752	38,428	11,412	17.6%	32.0%	6.2%
福山港	7,116	6,466	650	5,682	5,039	643	▼1,434	▼20.2%	▼22.1%	▼1.1%
大竹港	186	178	8	2,844	2,658	186	2,658	1429.0%	1393.3%	2225.0%
徳山下松港	13,088	9,659	3,429	14,926	9,987	4,939	1,838	14.0%	3.4%	44.0%
岩国港	2,687	2,301	386	1,849	1,668	181	▼838	▼31.2%	▼27.5%	▼53.1%
三田尻中関港	11,068	9,221	1,847	14,916	12,118	2,798	3,848	34.8%	31.4%	51.5%
宇部港	1,650	1,612	38	2,244	2,230	14	594	36.0%	38.3%	▼63.2%
合計	141,389	78,357	63,032	154,716	89,062	65,654	13,327	9.4%	13.7%	4.2%

- 中国地方の港湾における平成27年の国際コンテナ取扱貨物量に対する国際フィーダーコンテナ取扱貨物量の割合は23.7%となっており、近年では最も高い割合となっています。

(図-4、表-4参照)

- 中国地方の港湾における平成27年の国際フィーダーコンテナ取扱貨物量の港別内訳を見ると、広島港、水島港の2港における取扱量のみで全体の72%を占めています。(図-5参照)

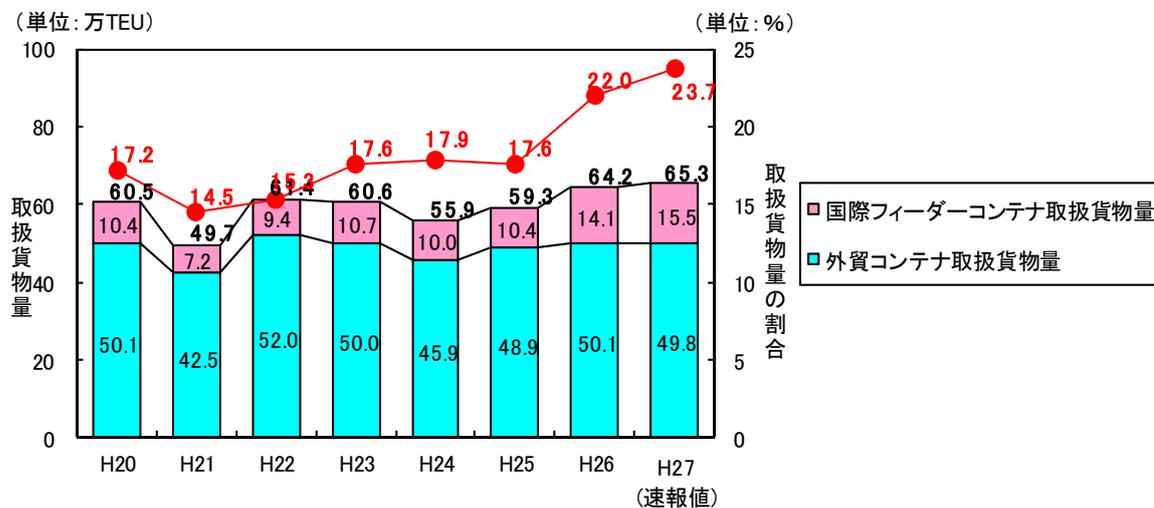


図-4 【国際コンテナ取扱貨物量に占める国際フィーダーコンテナ取扱貨物量の割合】

種別	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27 (速報値)
①国際フィーダーコンテナ取扱貨物量	10.4	7.2	9.4	10.7	10.0	10.4	14.1	15.5
②外貨コンテナ取扱貨物量	50.1	42.5	52.0	50.0	45.9	48.9	50.1	49.8
③国際コンテナ取扱貨物量 (①+②)	60.5	49.7	61.4	60.6	55.9	59.3	64.2	65.3
国際フィーダーコンテナ取扱貨物量の割合 (%) (①/③*100)	17.2	14.5	15.3	17.6	17.9	17.6	22.0	23.7

表-4 【国際コンテナ取扱貨物量と国際フィーダーコンテナ取扱貨物量の推移】

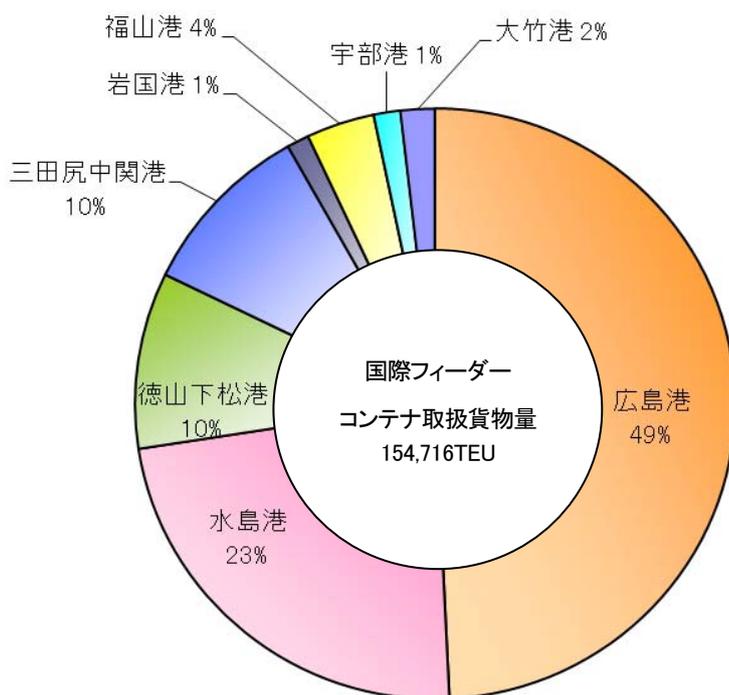


図-5 【平成27年 国際フィーダーコンテナ取扱貨物量の港別内訳】

## ■ 各港における国際コンテナ取扱貨物量の主な増減要因

平成27年の国際コンテナ取扱貨物量を平成26年と比較し、主な増減要因を以下のとおりまとめました。

### △ 境港：862TEU増（平成26年比 2.6%増）

中国向けの「紙・パルプ」や、韓国向けの産業機械などの輸出が増加しました。

フィリピンからの「木製品」や、韓国からの「産業機械」などの輸入が増加しました。また、中国からの「電気機械」、韓国からの「染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品」などの輸入が減少しました。

### ▼ 浜田港：1,125TEU減（平成26年比 22.5%減）

韓国向けの「原木」や中国・台湾向けの「紙・パルプ」などの輸出が減少しました。また、中国からの「化学薬品」などの輸入が減少しました。

### △ 水島港：2,586TEU増（平成26年比 1.7%増）

中国向けの「非鉄金属」の輸出は増加しました。

国際フィーダーコンテナ取扱貨物量のうち、北米等へ向けた「自動車部品」の移出は減少しました。

### ▼ 広島港：3,603TEU減（平成26年比 1.6%減）

中国向けの「金属製品」の輸出が減少しました。また、中国からの「その他日用品」の輸入が減少しました。

国際フィーダーコンテナ取扱貨物量のうち、東南アジア（タイ・ベトナム）向けの「自動車部品」の移出、タイからの「自動車部品」の移入が増加しました。

### ▼ 福山港：2,659TEU減（平成26年比 3.2%減）

中国からの「その他日用品」の輸入が減少しました。

### △ 大竹港：3,899TEU増（平成26年比 150.0%増）

韓国からの「樹脂類」の輸入が増加しました。

国際フィーダーコンテナ取扱貨物量のうち、アメリカ向けの「樹脂類」の移出が増加しました。

### △ 徳山下松港：8,418TEU増（平成26年比 11.3%増）

中国及び韓国向けの「染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品」の輸出が増加しましたが、アメリカからの「金属くず」、南アフリカからの「金属鉱」の輸入は減少しました。

国際フィーダーコンテナ取扱貨物量のうち、マレーシア向けの「染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品」の移出、アメリカからの「再利用資材」の移入が増加しました。

### ▼ 岩国港：1,243TEU減（平成26年比 4.9%減）

中国向けの「染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品」ならびに、インドネシア向けの「糸及び紡績半製品」の輸出が減少しました。一方、韓国からの「非金属鉱物」「化学薬品」の輸入が増加しました。

国際フィーダーコンテナ取扱貨物量のうち、台湾向けの「染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品」移出、カタールからの「染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品」の移入が減少しました。

△ 三田尻中関港：**4,169TEU増**（平成26年比13.4%増）

中国及び台湾向けの「自動車部品」の輸出が減少しました。

国際フィーダーコンテナ取扱貨物量のうち、ベトナム及びマレーシア向けの「自動車部品」の移出、諸国からの「自動車部品」の移入が増加しました。

▼ 宇部港：**922TEU減**（平成26年比9.7%減）

香港向けの「染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品」の輸出が減少しました。また、韓国からの「窯業品」の輸入は増加しました。

国際フィーダーコンテナ取扱貨物量のうち、香港向けの「染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品」の移出が増加しましたが、ドイツからの「電気機械」の移入が減少しました。

## 国際コンテナ貨物に関する主なトピックス（平成27年1月から平成28年3月まで）

### 【境港】上海航路の利便性が向上しました

- ・平成27年1月より境港から中国向けの上海航路は、寄港地の見直しにより、11日から4日に短縮されました。これにより毎月曜日に境港寄港後、同週の金曜日には上海に到着することとなり、境港の利便性が向上しています。

### 【浜田港】新たな助成制度の創設

- ・平成27年4月より、コンテナ航路を利用する荷主に対して、リーファーコンテナ<sup>※4</sup>貨物の輸送費用の助成制度が創設されました。

### 【水島港】韓国航路が増・減便

- ・平成27年6月より、韓国航路週1便が増便されましたが、平成27年10月に減便となりました。  
(韓国航路：週10便→週11便→週10便)

### 【広島港】韓国（釜山）航路が減便、韓国・中国との定期コンテナ航路が新たに就航

- ・平成27年1月から、韓国（釜山）との定期コンテナ航路が減便となりました。  
(韓国航路：週10便 → 週9便)
- ・平成27年12月から、韓国・中国との定期コンテナ航路が就航開始しました。  
(韓国・中国航路：ゼロ→週1便の運航)

### 【福山港】新たな助成制度の創設

- ・平成27年4月から、福山港を利用して混載貨物を輸出する物流事業者（国際フィーダー貨物含む）に対する補助制度を創設しました。

### 【徳山下松港】外貿定期コンテナ航路が増便、新たな助成制度の創設

- ・平成28年1月より外貿定期コンテナ航路（東南アジア航路）が1便増加しました（週1便→週2便）
- ・平成27年4月より新たに国際フィーダー航路に対しても減免措置を開始しました。  
新規航路は1年間荷役機械使用料を3割減免、入港料及び係船料を免除。  
既設航路は荷役機械使用料を2割減免。

### 【岩国港】内貿定期コンテナ航路が増・減便、新たな助成制度の創設

- ・平成27年4月より内貿定期コンテナ航路（東京・博多航路）が1便減少しました（週3便→週2便）
- ・平成27年5月より内貿定期コンテナ航路（神戸航路）が2便増加しました（週1便→週3便）
- ・平成27年4月より新たに国際フィーダー航路に対しても減免措置を開始しました。  
新規航路は1年間荷役機械使用料を3割減免、入港料及び係船料を免除。  
既設航路は荷役機械使用料を2割減免。

### 【三田尻中関港】内貿定期コンテナ航路が増便、新たな助成制度の創設

- ・平成27年4月より内貿定期コンテナ航路（神戸航路）が2便増加しました（週2便→週4便）
- ・平成27年4月より新たに国際フィーダー航路に対しても減免措置を開始しました。  
新規航路は1年間荷役機械使用料を3割減免、入港料及び係船料を免除。  
既設航路は荷役機械使用料を2割減免。

## 【宇部港】内貿定期コンテナ航路が増便、新たな助成制度の創設

- ・平成27年7月より内貿定期コンテナ航路（神戸航路）が1便増加しました（週1便→週2便）
- ・平成27年4月より新たに国際フィーダー航路に対しても減免措置を開始しました。  
新規航路は1年間荷役機械使用料を3割減免、入港料及び係船料を免除。  
既設航路は荷役機械使用料を2割減免。



## 参考

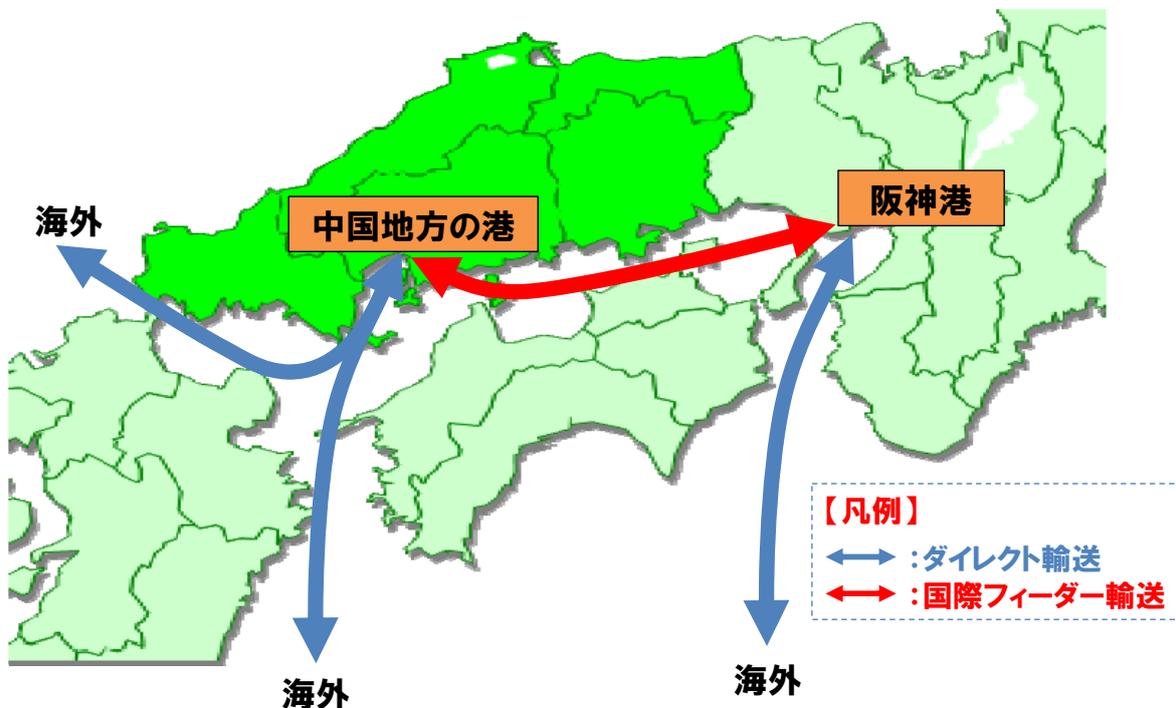
※1 TEU (Twenty-foot Equivalent Units) とは、20フィート (コンテナの長さ) 換算のコンテナ取扱個数の単位です。国際輸送に用いられるコンテナには主に、20フィートコンテナ、40フィートコンテナがあり、40フィートコンテナ1個は2TEUと計算します。20フィートコンテナ (長さ約6.06m×幅約2.44m×高さ約2.59m) 1個の内容積は約33m<sup>3</sup>です。



写真 港でのコンテナの取扱状況

※2 外貿コンテナ取扱貨物量とは、日本の港湾 (本文中では中国地方の港湾) と海外の港湾間で直接輸出入される (取り扱われる) コンテナ取扱貨物量を言います。 (下図の「ダイレクト輸送」を参考)

※3 国際フィーダーコンテナ取扱貨物量とは、コンテナ貨物を海外へ輸出する場合、中国地方の港と国内主要港 (阪神港、京浜港等) 間を内航船で輸送した後、国内主要港で外貿コンテナ船に積み替えられて輸出されるコンテナ取扱貨物量を言います。コンテナ貨物を海外から輸入する場合はその逆の流れとなります。 (下図の「国際フィーダー輸送」を参考)



※4 リーファーコンテナとは、壁面に断熱材を用いた保温コンテナで、庫内温度維持のために冷凍機が付属されています。冷凍貨物だけではなく、温度変化に敏感な貨物、一定の温度管理が必要な貨物の輸送にも最適なコンテナです。